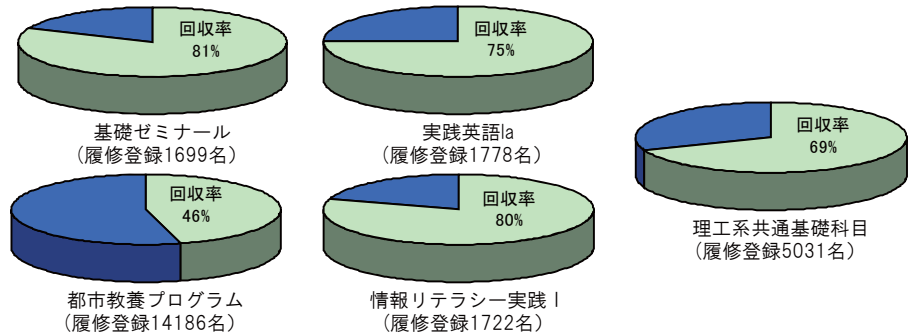


※結果の詳細はFD委員会ホームページに掲載しています。http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/

今年度も基礎ゼミナールや都市教養プログラムなど、全学共通科目の授業評価アンケートを実施しました。アンケートの対象者数と回収率はグラフのとおりです。今回も多くの学生の皆さんにご回答いただきました。

**ご協力ありがとうございました！**



※ 調査結果は回答者個人が特定できないような形に処理した上で、FD委員会の責任で集計・周知されるとともに、授業担当者にフィードバックされます。  
 ※ アンケート結果内のグラフは“強くそう思う”または“そう思う”の回答割合を示しています。ただし“時間外学習時間”については“1時間以上”の回答割合を、“難易度”と基礎ゼミの“時間バランス”および理工共通の“クラスサイズ”の設問については“ちょうどよい”の回答割合を示しています。  
 なお、質問事項の一部は簡略化しているものがあります。

## 基礎ゼミナール



### こんな意見がありました

- プレゼンテーションやレジュメの作成方法がためになった。
- グループディスカッションが楽しかった。
- 図書館の利用方法が分かった。
- 発表が多くて大変だった。

### 授業担当者から

- グループワークと講義・解説とのバランスに改善の余地があった。
- 柔軟な課題設定など、様々なコースの学生の多様な関心に対応するのが課題。
- グループディスカッションを取り入れ、参加意識・意欲を高めるよう工夫した。
- 授業時間外にも自主的にグループでの予習や準備を行うよう促した。

担当部会からのコメント： 授業に対する全般的な評価や、授業を受けての満足度は概ね高いですが、授業の目標や成績評価方法に関する理解の促進に向けて改善の余地がありそうです。

### FD (ファカルティ・ディベロップメント) とは

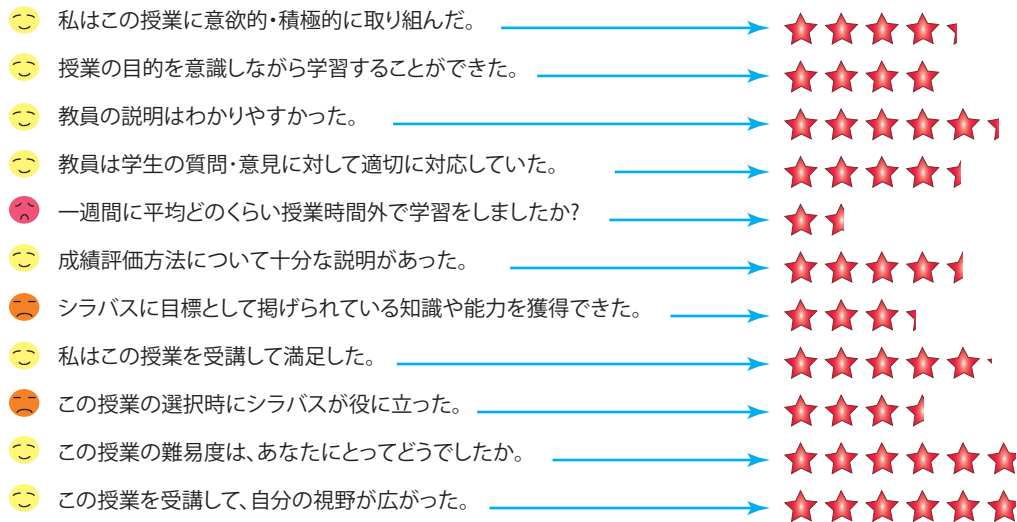
起源は、米国にあり、「大学の自己評価機能の開発、個人と組織の研究機能の開発、個人と組織の教育機能の開発、教員人事機能の適正化の実現、管理運営機能の開発」を含んだ大きな概念とされています。日本では「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称」と定義されています。

### FD レポートの愛称「CROSSROAD」の由来

CROSSROAD (クロスロード) とは、首都大学東京が4つの大学を再編・統合して設置された大学であるため、その「文化の交差点」を意味して命名しました。4つの大学の知的文化が交差すること、そこで出会って新たな教育が生み出されていくこと、それがこの名前コンセプトです。



# 都市教養プログラム



## こんな意見がありました

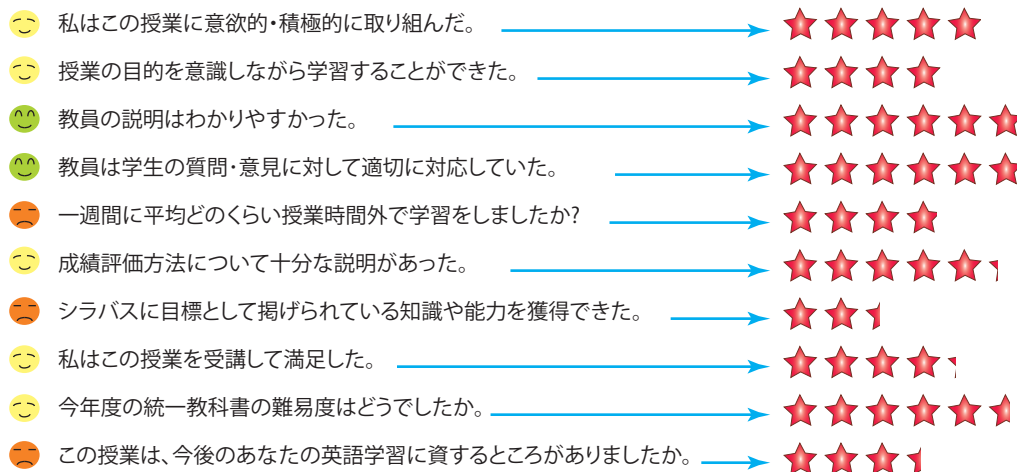
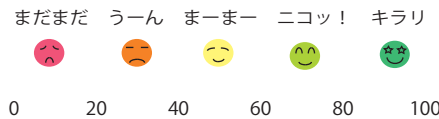
- 説明がわかりやすく、興味・関心が広がった。
- オムニバス形式の授業で、さまざまな先生の話聞いたのが面白かった。
- 成績評価方法をもう少し詳しく教えてほしい。
- 先生の声が聞き取りづらかった。

## 授業担当者から

- 文系・理工系の学生が混在しており、焦点の合わせ方に苦労した。
- パワーポイントやビデオなどの映像資料を利用して理解を深めるよう努めた。
- 配布プリントにも趣向を凝らし、分かりやすくした。

担当部会からのコメント： 満足度に関しては学生と教員の認識に違いはありませんでしたが、成績評価方法の説明や説明のわかりやすさには認識にズレがあるようです。これらの点については改善に努めていきたいと思っております。

# 実践英語 Ia



## こんな意見がありました

- リスニングの練習が役に立った。
- 丁寧な指導でわかりやすかった。
- 全員が参加できるような授業にしてほしい。
- 内容の理解に関する演習問題を増やしてほしい。

## 授業担当者から

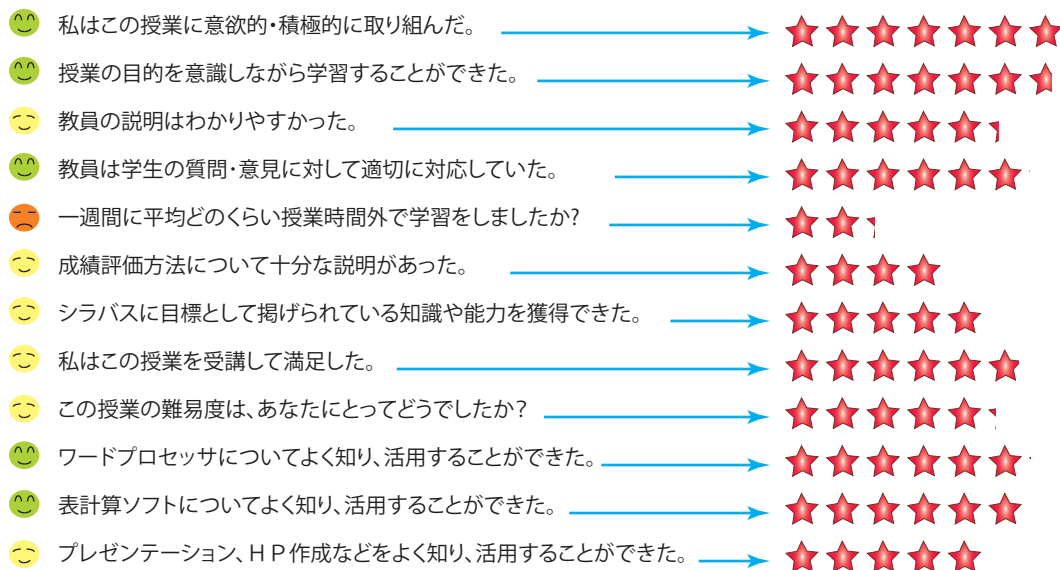
- ペア、グループワークを取り入れ、協力して取り組めるよう工夫した。
- 単語テストや小テストをこまめに行い、丁寧に指導した。
- 発表を担当制にせず、全員が予習することを徹底した。

担当部会からのコメント： 実践英語 I a,b は統一教科書を使用しているため、基本的な授業内容が統一されており、すべての学生が有意義だと思えるような授業をすることを目指しています。

# 情報リテラシー実践 I

まだまだ うーん まーまー ニッコ！ キラリ

0 20 40 60 80 100



## こんな意見がありました

- パソコンの基本的な操作方法が身についた。
- チューターが丁寧に教えてくれた。
- もう少しゆっくり説明してほしい。
- 課題が難しかった。

## 授業担当者から

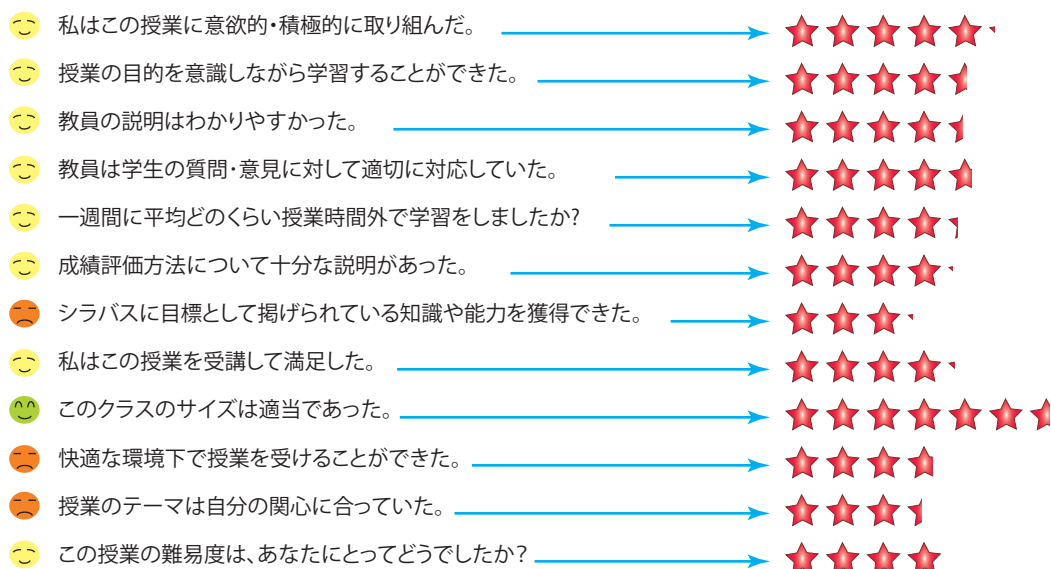
- 受講者の知識やスキルに差があり、進行に苦労した。
- 実習や演習を多く取り入れ、理解を深めた。
- 発展課題を多彩な内容にするなど進行を工夫した。

担当部会からのコメント： 情報リテラシーを身に付けるには、学んだことの復習や、実践で使うことが重要です。習得した ICT 活用による問題解決手法を専門の授業などでの課題に適用し、リテラシーをさらに高めてください。

# 理工共通基礎科目

まだまだ うーん まーまー ニッコ！ キラリ

0 20 40 60 80 100



## こんな意見がありました

- 例題が多く、わかりやすかった。
- 小テストや小レポートで復習ができた。
- 板書をわかりやすくまとめてほしい。
- 内容が難しかった。

## 授業担当者から

- 受講者数が多く、理解度にも差がある。TAの増員が必要。
- 学生との対話を大事にし、理解度の把握に努めた。
- 理解を深めるよう演習を多くした。Web page で授業の情報提供を行った。
- 毎回宿題やレポートを課し、学習内容の定着に努めた。

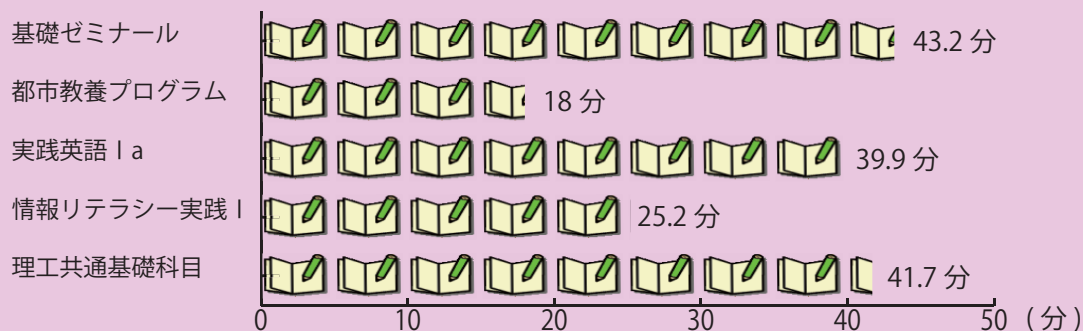
担当部会からのコメント： ここ数年、着実に授業時間外の学習時間が増し、「成果」「満足度」が高まっていることに喜んでいます。まだ「難しい」と思っている学生諸君、ちょっと自学自習を試みてください。

## どうして聞くの？（質問項目解説シリーズ No.1） 今回は「5. 授業時間外学習」

- 皆さんは単位を修得するにあたり、どのくらいの学習時間が授業時間外で要求されているのか考えたことがありますか。率直な回答を求めれば、「必要なだけ」ということになりそうですが、大学の制度を定める法律によれば、半期2単位・週1回・90分の講義の場合、少なくとも週当たり4時間程度の授業時間外学習が期待されているのです\*。
- では、首都大学東京の共通教育ではどうなっているでしょう。下図には、今回の授業評価の平均値を分換算して示しています。プログラムによって差がありますが、総じて十分な学習時間は確保されていない、と言えそうです。
- 授業担当の先生方が授業方法を考えたり、あるいは教育プログラムの在り方を検討したりする上で、こうした情報が役に立っているのです。

\*かなり大雑把な表現です。詳しく知りたい人はFD支援室（6号館4階409室）を訪ねてください。

### 平均的な授業時間外の学習時間（2009年度前期）



## 首都大では授業評価アンケート結果を基に様々な教育改善を行っています

- 本学では平成17年の開学以来、FD委員会を中心に、授業評価アンケートの結果等を基に様々な教育改善に取り組んできました。その主な例をご紹介します。
- 基礎ゼミナールの1クラスあたりの学生数を少なくしてほしいとの要望（学生、教員とも）を受け、クラス数を少しずつ増やしてきました。
- 実践英語では、授業評価アンケートの結果も参考に、この間、統一テキストや授業ガイドラインの改善を行ってきました。
- 都市教養プログラムについて事実上科目選択の幅が少ないという声を受け、文系理系に渡って幅広い分野から履修するという趣旨は生かしながら、選択の幅を広げるよう、平成21年度入学者から履修方法の見直しを行いました。
- 情報科目等での自習用に、6号館1階のフリースペースにパソコンを設置しました。
- 理工系共通基礎科目では、100人以上の授業を減らすことを目指し、少しずつクラスを分けたり、ティーチング・アシスタント（TA）の配置を増やしたりしました。

### 編集を終えて

これまでFD活動、とくに授業評価アンケートは講義を行う教員側の反省や授業方法の改善の資料とされてきました。それはそれで有意義なのですが、アンケートに答える学生の側にはメリットが感じにくいものです。自分たちの回答が大学や教員にどう受け止められ、どんな変化があったのか（あるいは期待できるのか）を知りたいはず、また自分の回答が平均的なのか特異なのか、にも興味があるのではないか、そう考えて初めての試みとして「別冊クロスロード」としてリーフレットを発行します。教職員だけでなく、学生のみなさんが、このアンケート結果を見て感じたこと、授業に対して日頃思うこと等をFD委員会に寄せてくださる「きっかけ」になれば、と願っています。

FD委員会広報部長 田代伸一（都市教養学部理工学系機械工学コース）